



学生諸君の見解は

学長特別補佐 横 沢 正 芳



私の研究室（宇宙物理）に来る学生に聞くと、テレビも新聞もあまり見ないと言います。それなら、ニュースはどこで知るのがか尋ねると、インターネットで分かりますと応えていました。最近、新聞社がまとめた時事問題集が就職活動に向けた対策本として売られています。確かに、ニュースの知識は得られるであろうが、君たち学生の見解はと聞くと、ニュース等で流されている内容がそのまま返ってくる。

私は、テレビを結構よく観ます。その中で楽しみに観ているのがNHKの大河ドラマです。現在は、「龍馬伝」が放映されています。一昨年に「篤姫」が放映されたときには女子学生の間で話題になったと報道されていました。現在、放映されている「龍馬伝」は、主人公が格好良く面白いです。観ていると、土佐藩士の武市半平太のシーンが随分と長く引っ張られました。最近の場面で、龍馬が「気概だけではこの世の中は変わらないぜよ」とのことばになるほどその意味があったのかと分かりました。私たちの世代は、司馬遼太郎著の「竜馬がゆく」（1962年）を愛読しています。その中では、武市半平太との関わりはこれほど大きくはなかったとの印象があります。右上がり成長の時代とは異なり、現在の先行きが不透明な時代での「龍馬」を描くことを制作者は狙っているようです。司馬遼太郎の「竜馬」もヒーローなのですが、歴史的青春群像の中で描かれていると思います。現在制作中の「龍馬」（福田靖脚本）では「龍馬」個人に焦点を当てたドラマのように見えます。

このようなとりとめのない話を研究室に来る学生と交わしたいものと思っています。大学4年間は短いものですが、おそらく君たち人生の中で最も自由に使える時間が豊富にあるときです。この時間を有効に使って社会に飛び立つ準備を整えて欲しいものと思います。

ローザ・プルムラ 第41号

（平成22年度10月発行）

目次

学生諸君の見解は	1
大学教育センターより	2
平成21年度推奨授業表彰	3
小特集①・「平成21年度推奨授業表彰インタビュー」	4
小特集②・「How to キャリアアップ」	6
学生の声	8

大学教育センターより

あなたの「テキスト(適スト)」はなんですか？

勝 本 真 副センター長（教育点検支援部長）

みなさん、大学に入学してから半年が過ぎましたが、生活は落ち着きましたか？入学する前は、高校の授業、部活動、塾など決められた時間で毎日を過ごし、自由な時間は少なかったのではないのでしょうか。入学後は、ガイダンス、履修登録、多彩な講義、一人での生活など、自分で判断し行動することが多くなり、戸惑うことが多かったと思います。それでも半年が過ぎて、少しは落ち着いて来た頃でしょう。そこで、4年間の大学生活のシナリオを考えてみてはどうでしょう。

前期の授業は、自分の興味や友達・先輩の意見などを基準にして申請し、受講した人も多かったのではないのでしょうか。これからも同じように考えて過ごすこともできますが、新しい自分を発見するために、ちょっと違った基準で選ぶことにチャレンジしてみよう。新しい知識や物の見方など、新しい自分作りには欠かせない要素となるはず。ぜひ後期は、チェンジするための一歩を踏み出してみよう。

さて授業だけではなく、それ以外にもどんどん新しい世界に踏み出してみよう。大学時代は、それができる貴重な時期です。新しい事にチャレンジする時には、今までにない経験をするのですから、常に不安がつきものです。しかしこの経験が皆さんを大きく育てていきます。特に成功体験だけでなく、失敗体験の方が大きなものになると思います。最近では、失敗を恐れて無難に生活を送っている学生が多く、この時期にしか経験できない貴重な機会を見逃しているような気がします。

現在の社会は、「ストレス社会」だと言われるぐらい、ストレスが蔓延しています。しかし本当にストレスは、すべて悪者なのでしょうか。人間の身体は、過剰なストレスに対して、様々変調を起こしてしましますが、適度なストレスに対しては適応していきます。高校時代に、何時間も受験勉強をしていた頃、毎日長い道のりを徒歩や自転車で通学していた時など、身体はしっかり適応してすごい身体になっていました。し

かしその環境が変わって楽な環境になると、逆に適応して身体はだんだん弱くなっていきます（受験勉強していた時間だけ、現在は集中して勉強できますか？）。つまり皆さんの身体は非常に賢く、毎日の生活に密接に関係してバランスを取っています。ですから、適度なストレス→適スト（テキスト）は、皆さんにとって必要な要素だと思います。

これからの大学生活では、新しい事にチャレンジして、どのような「適スト（テキスト）」を見つけるかがポイントになります。ボランティア活動、部活動、同好会活動など授業以外での様々な活動も積極的に参加してみてください。自分とは全く異なったタイプの人々との付き合いや、生活の時間が制限されるなど、様々なストレスが掛かってきますが、それを解決していく過程が貴重な体験になります。限られた時間の中でやりくりの仕方を覚えたり、相手の良い所に目を向けながらコミュニケーションを取り、みんなで仕事を解決していく過程で、素晴らしい能力を身につけることができます。最近の就活のキーワードは、「コミュニケーション能力」です。集団と積極的にかかわりながら、自分自身の特徴をしっかりと出して行くかが、特に問われています。

さあ、これからの4年間で自分のテキスト（適スト）とうまく付き合いながら、自分自身の「普通」をしっかりと見つけて、充実した大学生活を送ってください。



平成21年度推奨授業表彰

推奨授業表彰制度は、年度毎に教養科目の中から推奨授業を選定し、担当教員を表彰することによって、授業の改善及び教育力の向上を図ることを目的に、2001年度に制定されました。

推奨授業は、専任教員が担当するすべての正課授業を対象とし、「推奨授業表彰候補者推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」、「表彰候補者の面接」などに基づいて教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価し選定されます。

平成21年度推奨授業には、次の2つの授業が選定されました。

「物理学実験基礎」	吉田 宏二 先生	(大学教育センター)
	藤原 高德 先生	(理学部)
	榊 守 先生	(教育学部)
	栗原 和美 先生	(工学部)

授業概要：基礎的な実験と講義を通して、自然現象（特に物理現象）への理解を深め、現代科学や近代技術の基礎となる自然の仕組みを理解するとともに、物理実験の基本事項を知る。授業では、まず物理実験全般に関わる考え方や留意点について解説し、次にいくつかの物理現象（「力学」「振動・波動」「熱・仕事・エネルギー」「電気・磁気」「物質・原子」）を選び、それに関わる基礎的な実験を行うとともにその実験の意味を演習的にえる。

「総合英語 レベル4」 ジョイス イサベル カニンガム 先生 (人文学部)

授業概要：The aim of this course is to give students an opportunity to learn and practice language by exploiting individual/group tasks and completing language learning projects. Students will develop advanced conversation skills and participate actively in problem solving tasks/projects with an emphasis on production skills.

* 授業概要は平成21年度教養科目シラバスより抜粋



平成21年度推奨授業の表彰式 (H22. 6. 11 学長室において)
一番左から白石副学長、勝本副センター長、榊守先生、吉田宏二先生、池田学長、
ジョイスイサベル カニンガム 先生、森野センター長、佐藤副センター長

平成21年度推奨授業表彰インタビュー

平成 21 年度推奨授業表彰を受けられた「総合英語 レベル4」のカニンガム先生（人文学部）、「物理学実験基礎」の吉田先生（大学教育センター）にお話をうかがいました。

JOYCE Isobel Cunningham
先生（人文学部）
「総合英語レベル4」



受賞おめでとうございます。
先生が総合英語の授業で心掛けていらっしゃるポイントを教えてください。

Well, first of all, in my English language class, I feel it is important to emphasize a communicative atmosphere where students are comfortable practicing their English. 高校まで文法と語彙を教え込まれてきた人たちが多いので、英語って楽しい、と思ってもらえる目新しさを出したいんです。そのために授業では多少役者みたいな気持ちで臨んでいます。I need to be really 'up' and genki! でも、私だけが頑張るんじゃなくて、学生さんもそれにつられてノッてもらい、お互いがついコミュニケーションをとりたくなるような。そういう雰囲気を作ろうとしています。

総合英語は1講時にもありますから、そこではやっぱりなからワクワクして授業に来てもらうのはある意味至難のわざです。I think I need to respect my students. 朝から出てきてもらうためには自分も早めに教室に顔を出して、機材をちゃんとセッティング始めるようにしています。

確かに、総合英語は1講時と2講時なので、朝から自分にネジをまくのは先生も学生も大変ですね。

それから、クラスではお互い知り合うチャンスを多く作るようにしています。小さなペアやグループ同士にし、お互い顔が見えるように座ってもらいます。それに、木曜の1講時は特に、水曜でクラブ活動をやった後の学生が多いので、頭をリフレッシュしてもらう意味もありますね。I get my students to change their pairs about every 10-15 minutes in order to get the oxygen flowing to their brains.

先生は、シンプルな英語で学生にわかりやすい指示を出していらっしゃるなあ、といつも思うのですが。

特に課題などに関する指示は、わかってもらえないと学生が損をしますからね。また、わからないことはちゃんと確認するなり、質問するなり、してもらいた

いと思っています。日本の学生はわからないことをあまり顔に出さないでしょう。それがいい学生像だと思ってますよね。A quiet student is a good student, they have learned in high school but if they don't ask questions, I can't know what they don't understand. 日本人の先生は学生の様子を見てわかるのかもしれませんが、私は、わからないことはわからないと表現する文化で育ってきたので、アピールしてもらわないとわからない。質問されないと、みんながわかっているだろうと思って進んでしまいがちです。ですから、なるべくわからないところはわからないと言ってもらいたいし、少なくともお互いに確認できる時間をとって、学生同士で不安を解消できるようにしてもらいます。

When focusing on speaking and listening, I want students to understand that it is NOT a grammar exercise and so they can make mistakes. 特に文法にフォーカスしている時でなければ、多少間違ってもいいから「何か話す」こともとても大切です。でない、実際に英語を使う場にまごまごして、必要なコミュニケーションがとれなくなってしまう。文法的に正しいだけが重要なことではないのですが、間違ってもいいから考え込まずに話す、ということに慣れてもらうには時間がかかりますね。何か月も言い続けるようにしています。just 'do it' が必要な状況もありますからね。

それはとても大切なことですね。高校まで、英語はちょっとでも間違ったらいけない、と思っていた学生にとっては大きな意識改革です。

ですから、間違いを直すときにもかなり気を遣っています。I don't like saying "No, that is not right." ただ否定することが必要なことではなくて、学生が陥りそうな間違いに気づいて、その間違いをしなくなるようにすることが一番大事なことです。I praise them when they have done something well. 自信を持たせながら、うまくいったときには大いに褒めるようにしています。

では、学生にメッセージをお願いします。

Come to class and enjoy learning English. Try to use every chance you can to participate actively in groups or with a classmate. Use your English whether it is right or wrong so that your English will

get stronger. You can learn a lot from your classmates. Take risks. Be more spontaneous in expressing yourself. Keep a vocabulary log and review for 5-10 minutes every day or every other day.

Use the words actively in conversations in class. Meet new people in the class and make new friends. You are entering a new world. Come and be part of it!

吉田 宏二先生
(大学教育センター)
「物理学実験基礎」



4名を代表して吉田宏二先生にお話を伺います。まずは受賞に関するご感想を聞かせてください。

正直なところ、意外に思っています。ラッキーと言える部分もあるのかなど(笑)。授業アンケートの結果が良かったということですが、教え方うんぬんが評価されたのではなく、単に学生が一生懸命実験をやって、その実験が面白かったと。そういうことではないかと思えますよ。

それは少し謙虚過ぎませんか？(笑)

前年と比べてよりわかりやすいように内容を変えたとか、やり方を工夫した、というのは確かにありますが、一番は人数がちょうど良かったというのがありますね。今回は25名くらいでした。前年は40名を越えるくらいで、実験装置をあまりさわれない学生も増えてきます。また人数が少ないと目が行き届きやすく、手厚い指導ができる。そういうことが好評価につながったのでしょうか。

授業の様子をきかせてください。

私は力学実験を担当していたのですが、担当者によってやり方は違います。私の授業では2人1組になって、高校の教科書に載っているような基本的な実験をします。他には、例えば、ひとり一人がモーター工作し、その回転数を競う「コンテスト」もやっています(栗原先生)。学生はそういったイベント的なことの方が面白いのかもしれませんが(笑)。

教養の実験科目ですが、どんな学生さんが多いですか？

やはり工学部と農学部の学生が多いですね。半々くらいです。前は人文学部の学生もいたんですよ。物理はやったことないけど興味があると。

それは少し驚きです！学部を問わず参加歓迎、ということですか？

気持ちとしてはそうですね。ただ、シラバスでは「一度何らかの形で物理をやったことがある人」と制限

を付けています。もちろんこれはやる気次第でどうにでもなります。

前提として理論的な知識があった方がいいと？

もともと実験というのは、ある程度は座学とセットでないと意味が薄いわけです。例えば、力学で言えば重力加速度 $g=9.8\text{m/s}^2$ というのはよく知られていることですが、それを実験で定量的に求めたかったとします。授業では実験の手法がある程度指定されていて、その通りにやればそこそこの値は実現できるかもしれませんが、でも、値が実現できるだけでは意味がないと思っています。本当はその裏にある理論というか理屈を理解してもらって、それが目の前で実際に本当に起こるんだ、ということを感じてもらいたいわけですね。

それがないと、あまりにも出てきた数値に目を向けすぎてしまう場合もあるんですよ。実験では、妙な数値が出てきたらそれはそれで何がおかしかったのかを考察するのが大切と思っています。極端な話、9.8とぴったり出たからといって、果たしてそれがいい実験だったのか？と言えるわけです。どこかで計算間違っていたのかもしれないし、ミスが重なってそうなったのかもしれない。

残念ながらすぐには喜べないわけですね。

実験ですから何かのエラーが起こるのは当然です。大事なのは、そのエラーによってどれだけ定量的な意味で結果が左右されたかを説明しようとすることです。例えば数値が予定より小さくなったと、だったらあるエラーが数値を小さくするように働いたはずだと、それを調べるとそのエラーを定量的に意味づけできる。そういったところまで考えられるようになってほしいと思っています。

最後に、学生さんへのメッセージをお願いします。

高校でも「実際にやってみる」という機会があまりなかった人は多いでしょう。習った結果と実際の現象がこういう風に合致するんだ、と実感することで興味が強くなったり、新しく何かに気付いたり、とにかく学習のきっかけにしてほしいし、きっとそうなると思います。実験と理論のいつたりきたりが物理の歴史そのものでもありますからね。とにかくよく考えて、その考え方を自分なりにものにしてほしいですね。もちろんこれは物理に限った話ではありません。

How to キャリアアップ

学生就職支援センター長 大西和榮

大学は学生さんが主役です。最近の新聞には、どこそこの大学のナンチャラ学生グループが、どういう活動をしたといったことが盛んに報道されています。茨城大学においても、社会と繋がる大学の行事に積極的に関わる学生さんの姿がみられます。図1は、本年7月24日に開かれた茨城大学オープンキャンパスでの一コマです。赤いシャツを着た在学生在が、キャンパスを訪れた高校生や保護者の相談に熱く答えています。図2は、就職ガイダンス教室の前に立ち、先輩内定者として3年生に就職体験を話す学生就職活動支援サークルBridge代表の長谷川貴広君（理学部4年）と二人の副代表です。図3は、水戸黄門祭り市民カーニバルに参画した茨城大学パレードに加わり、市民に華麗な踊りをアピールした学生さんの一団です。大学名の入った揃いの‘はっぴ’が映えています。



図1. キャンパス公開での支援学生



図2. キャリアガイダンスでの支援学生



図3. 水戸黄門祭り市民カーニバルで踊る学生

今や学生さんは、授業外の社会活動にも果敢に打って出ております。就職すると云うことは、社会人になることです。社会人になるためには、社会人基礎力を身に付ける必要があります。授業での学修と社会との関わりを通して社会人基礎力が生まれます。社会との関わりなく卒業した入社後に、いきなり社会人基礎力は生まれません。近年、就職活動（就活）は厳しいと云われます。就活が厳しいと云うことは、会社も厳しいと云うことです。かたや、大学はこの厳しさにどう対応しているのでしょうか。会社は新入社員に社会人基礎力を施す余裕はありません。入社試験・面接をとおして社会人基礎力を身に付けた学生さんを拾い上げるのです。

就活とは仕事を選ぶこと、会社を選ぶことです。江戸時代までと違って今は自由に選ぶことができます。自由に選べるといっても、実は皆さんは会社から選ばれる立場でもあることを頭に入れて置きましょう。これまで皆さんが過ごした学校時代は、成績が良ければ選ばれました。会社は、成績が良いだけでは皆さんを選びません。成績が良くても自社にマッチしなければダメです。

自由に会社を選べるといっても、自由に仕事を選べるといっても、会社や仕事を知らなければ選びようがないですよね。でも、会社や仕事を教えてくれる授業は、わずかな例外を除いて大学にはありません。どんな例外が

あるかシラバスで調べてご覧下さい。では、どうしたら選ぶことが学べるのでしょうか。答えは「自分で学ぶ」です。就活を通して学生さんは確かに成長します。もし、学び方がわからなかったら、自分の身近な就職担当の先生に相談して下さい。あるいは「学生就職支援センター」に来て下さい。「学生就職支援センター」が果たして使えるセンターか、使えないセンターかは、あなたの利用仕方次第です。

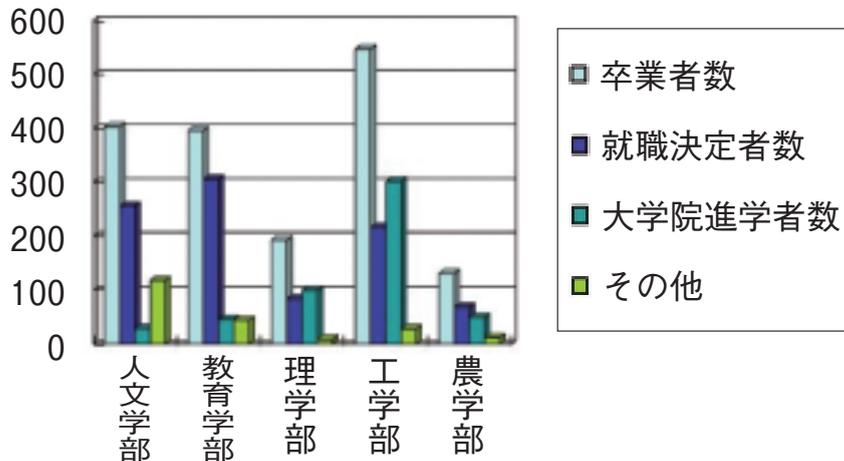


図4. 学生の進路状況（平成21年度）

図4は、茨城大学の平成22年3月卒業生が選んだ進路です。この進路結果が生まれるまでには、大学1年生からの長期に亘る学生さん個人の努力と大学の準備がありました。大学1年生から準備することに驚くかも知れません。なぜ、就活はこんなに長いのでしょうか。それは、就活については、法整備が未だなされていないからです。

一方、日本での「キャリア教育」は小学校から大学まで最近ようやく法整備されました。□教育基本法第2条（教育の目的）第2号：個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと（下線部は筆者による。平成18年の改正で下線部が付け加わった。）□学校教育法第21条（義務教育の目標）抜粋：職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと（平成19年の改正）。□平成21年3月改定の新学習指導要領では、「（抜粋）【高等学校】生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。」□平成22年2月の大学設置基準等の改正では、「（抜粋）大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」…以上はお役人言葉ですので、読みにくいかもしれませんが、若者の生涯に寄せ、国の将来を愁う気持ちが表れていますね。

終わりに、なぜ、就職するのかを考えてみましょう。答えは一つではありません。あなたには、あなたの答えがある筈です。次の言葉も一つの答えです。

『^{たみ}民の道^{みち}たるや、^{コウサン}恒産^あ有る者は^{もの}恒心^あ有り、^な恒産^な無き者は^な恒心^な無し。』

（『孟子』藤文公・上）【大意】一般庶民に共通しているのは、安定した収入があれば心も落ち着き、安定した収入がなければ心も落ち着かないものだ。「恒産＝生業」、「恒心＝安定した正しい心」の意。

卒業は大学にとってのゴールでした。就職は卒業する学生一人一人の人生のスタートと云われてきました。ここに至って、就職は大学にとってのゴールと云われかねないムードになっています。好いスタートとゴールが切れるために、密度の濃い大学時代の日一日を送りましょう。

学生の声

就職活動に関する先輩からのアドバイス 「1年生のこの時期の過ごし方」

人文学部人文コミュニケーション学科
4年 市田 尚子

理学部理学科生物科学コース
4年 竹谷 知幸

私は地元の銀行の一般職に内々定をいただきました。自分の就職活動を振り返ってみると、不景気の影響もあり予想していたよりも長期化し、また厳しかったです。1年生の皆さんに1つアドバイスをさせていただくとしたら、充実した大学生活を送ってほしい、という一言に尽きます。

将来就きたい職業が決まっている人は、時間のある今の中に資格試験を受けたり、また関係のある業種でアルバイトをしてみるのもいいでしょう。自分がどんな仕事にしたいのかわからない人は、学業はもちろん、アルバイト、サークル、部活、ボランティア、海外旅行…なんでもできることはあります。自分らしくないな、と思うようなことにチャレンジするのいいと思います。小さなことが意外自己アピールとなることがあるからです。

就職活動はまだまだ先のことだと感じるでしょうが、本当にあっという間なので、限られた時間を大切に、自分なりにとにかく一生懸命取り組めば自信を持って就職活動ができると思います。

私が1年生の後期にやっておくべきだと思うことは、まずはしっかりと大学の単位を取っておくことです。3年生の後期から企業の合同説明会やエントリーなど、本格的に就職活動が始まりますが、その時までにはちゃんと単位を取っていると、志望する業界、企業についてじっくり考え、志望企業の選考にもある程度余裕をもって挑むことができます。

また、業界、職種、企業についてインターネット、書籍などを利用して調べることも大切です。私の経験では、この業界、企業研究に最も時間がかかりました。まだ1年生で就職活動に対して実感が湧かないとは思いますが、早目に調べておくと3年生後期に慌てることもないかもしれません。私は3年生後期になってから合同説明会に出たりして企業研究を始めましたが、遅かったなと思いました。他にも自己分析とかSPIなどの試験対策がありますが、1年生のうちではなくても早目にやっておくと良いと思います。就職活動では何でも早目に行動した方が楽になります。

編集後記

- 秋ですね！おいしいものがたくさん！この時期にたくさんおいしいものを食べて、栄養をとってくださいね。特に独り暮らしのみなさんは栄養が偏ったり不足しないように（すっかりおかんモードです）。（上田）
- 今夏は暑かったですね！あまりの暑さで精気がまだ回復していない、そんな人も多いのではないのでしょうか？そんなあなたに（わたしに）茨城のアンコウを！おいしい季節が来ました。まだの人はぜひご賞味を。（梅原）
- 地球温暖化のせいでしょうか？ゲリラ豪雨、記録的な猛暑の今夏、皆さんはどのように過ごしましたか？最近はずいぶん過ごしやすくなりましたが、まだその影響で疲れが…。これからはどんな異常気象が待っているのでしょうか？暖冬なら許せるかな。（^v^）（吉田）

発行日 平成 22 年 10 月 / 発行者 茨城大学 大学教育センター 水戸市文京 2-1-1 029(228)8416(学務課教養教育係)